



第47回企画展(会期：平成30年9月11日(火)～12月2日(日))

発掘速報展2018

—近年の調査成果①—



Kyushu Historical Museum Exhibition guide

はじめに

九州歴史資料館は、福岡県内各地に所在する遺跡の発掘調査を実施し、県の歴史を知る上で貴重な成果を挙げています。その成果を普及公開する活動の一環として、平成23年(2011)度より、企画展「発掘速報展」を実施してきました。

平成30年度は、京都郡みやこ町の伊良原ダム関係調査など、近年調査・報告がなされた遺跡の調査成果を紹介すると共に大宰府史跡発掘調査50年にあたる本年にちなみ、トピックとして、パネル展示「大宰府史跡発掘50年のあゆみ」を行うことといたします。

本解説シートでは2編にわたり、この企画展のうち、近年の調査成果でとりあげる遺跡について、ご紹介いたします。

伊良原地区の遺跡群

平成29年、京都郡みやこ町に県営伊良原ダムが完成しました。このダムは、^{はらいがわ}祓川流域の治水や、京築・田川地区への利水を目的としています。

九州歴史資料館では、工事に先立って、水没する場所やダムの周辺を走る道路工事で掘削される部分の発掘調査を平成18年から平成28年まで実施し、その間、発掘を行った箇所は32地点を数えます。

伊良原地区は、霊峰英彦山の北側、周防灘に注ぐ祓川の上流域の山間にあり、川の両岸に形成された河岸段丘や小さな沖積地で人々の生活が営まれました。発掘調査では、旧石器時代から現代までの遺跡が見つかりましたが、特に縄文時代(15,000～2,400年前)の集落、鎌倉時代から室町時代(13～16世紀)の集落と墓、江戸時代(17～19世紀)の神社跡が主体で、そのほかにもダム工事の影響範囲に点在するお堂や石塔の調査を実施しました。

(1) 縄文時代早期・前期の遺跡

所在：京都郡みやこ町上伊良原ほか
縄文時代早期・前期(約15,000～5,500年前)

上伊良原榎遺跡では、早期と後期に形成された層の中から、早期・前期・後期の土器や石器が4,000点以上も出土しました。中には、福岡県内では事例が少ない早

期の竪穴住居跡4軒をはじめ、調理場とみられる熱を受けた集石や土坑なども含まれます。竪穴住居跡のうちもっとも形が整ったものは、2.7m×2.4mの楕円形でした。また、口縁部の下に、刺突や瘤状の突起のある「柏原式」(福岡市柏原遺跡出土品が標識)と呼ばれる縄文時代早期初頭(今から15,000年前)の土器がまとまって出土した点でも注目されます。

伊良原地区では早期前葉から中葉の遺物をもっとも多く出土しています。これらは、刻みを入れた棒状の工具を転がして、外面もしくは内外面に文様を付けた「押型文土器」と呼ばれるもので、上伊良原榎遺跡や下伊良原竹の内遺跡など多くの地点で出土しています。

(2) 縄文時代後期・晩期の遺跡

所在：京都郡みやこ町下伊良原ほか
縄文時代後期～晩期(約4,500～2,400年前)

西の塚遺跡は、祓川によって形成された段丘下の川岸に立地しています。この遺跡では、後期の竪穴住居跡



展覧会で紹介する遺跡位置図

- ①伊良原地区の遺跡群 ②大宰府史跡 ③彼岸田遺跡
④本町遺跡 ⑤上町遺跡

1軒と、それと同時期の貯蔵穴が19基以上が確認されました。貯蔵穴は、祓川によって形成された段丘崖の裾に沿って並んでいて、斜面からの湧水によって湿地化した場所から見つかりました。貯蔵穴に蓄えられていたドングリはアカガシとツクバネガシが主体で、イチイガシもみられます。これらは種類ごとに分けて保管されていたようです。同様の貯蔵穴は、下流の下伊良原東向川原遺跡でも確認されています。

晩期の遺跡としては、刻目突帯文土器を主体とした時期の下伊良原中ノ坪遺跡があげられます。京築地域でこれほどまとまって、この時期の土器が出土した例は、行橋市の流末遺跡を除いて他にないため、山間部で発見されたことと併せて、稲作が導入される弥生時代前夜の様相を示す貴重な資料といえるでしょう。

(3) 鎌倉・室町時代の遺跡

所在: 京都府みやこ町下伊良原ほか
鎌倉・室町時代(13~16世紀)

鎌倉・室町時代の遺跡は、祓川に沿った河岸段丘上の傾斜地を、段状にある程度切り盛り整地して平坦な

空間を確保し、そこに2間×3~5間程度の規模の掘立柱建物を建てるのが、一般的な傾向にあります。下伊良原西の塚遺跡の建物跡は3間×7間(6.5m×15.5m)と、この地区の中世の建物跡としては最大で、有力農民クラスのものかもしれません。下伊良原中ノ坪遺跡では、総柱建物と土間空間と考えられる側柱建物が連結した、近世の民家に繋がる構造の建物跡が、室町時代に確認されます。

各遺跡で見つかった中世の墓の多くは土壙墓で、その大きさから脚を曲げた状態で埋葬することが一般的のようです。副葬品は素焼きの小皿と坏のセットを基本として、葬られた人の階層や性格に応じて青磁碗、鉄製刀子、青銅鏡が加わります。墓は、一般的には集落から離れた場所で点的に見つかることが多い一方で、上伊良原榎遺跡では生活空間のすぐ横にまとまって墓をつくる「屋敷墓」の形態をとっていました。

(文化財調査室 吉村靖徳)



縄文時代の竪穴住居跡(上伊良原榎遺跡) 縄文時代の集積遺構(下伊良原竹の内遺跡) 縄文時代の落とし穴(下伊良原平原遺跡)



ドングリの集積(下伊良原西の塚遺跡)



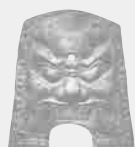
中世の土壙墓(下伊良原西の塚遺跡)



中世の掘立柱建物(下伊良原西の塚遺跡)



下伊良原西の塚遺跡遠景



編集 発行: 平成30年9月11日

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>